

# 学習・キャリア戦略論

## 実りある大学生活の実現に向けて道しるべを示す



山本以和子 教授  
[基盤科学系]

### 【経歴】

1997年04月-  
信州大学 助手  
2002年04月-  
株式会社ベネッセコーポレーション  
2008年04月-  
ベネッセグループ  
株式会社進研アド高等教育研究センター部長  
2009年09月-  
京都工芸繊維大学 准教授  
2020年02月-  
京都工芸繊維大学 教授

教育NOW

学習・キャリア戦略論

### 【授業概要】

本講義では、受動的な学習姿勢から主体的な学習態度への移行にあたって必要となる学習の方法論について学びます。これから生涯にわたって継続して行われる学習（生涯学習）の成果にコミットする効果的・戦略的な思考手法とスキルを身に付け、主体的な学習およびキャリアプランニングができるようになることを目的とします。

教師や周囲の人々の導きがあった高校までとは違い、大学では自立した学習者として自ら学びを組み立て、自分に必要な力を付けていく必要があります。とはいえ、急にマインドを切り替えるのは難しいもの。

「学習・キャリア戦略論」は、その手助けをするための授業です。

### 大学での学びを豊かにする 実践的なスキルを身に付ける

国際的に活躍できる高度専門技術者「TECH LEADER」の養成を教育目標に掲げている京都工芸繊維大学。そうした人材へと成長していくためには、学生それぞれが自分の目標を持ち、主体的にキャリアの構築を試みる事が不可欠です。そのことに目を向けさせるために1年前期に「キャリア教育基礎」という必修科目が用意されていますが、その発展版となるのが今回取り上げる「学習・キャリア戦略論」の授業です。

「この授業は1回生を主とした選択科目で、2021年度は約60人の多くの学生が履修しました。さまざまな課程の学生が受けてくれています」と話すのは、授業を担当する山本以和子先生。続けて、授業の狙いについて語ってくれました。「大学の初年次学生は、生涯学習（Lifelong learning）へのスタート地点にいます。中等教育段階までの大学合格に動機づけられた学習方法や学びの向き合い方から、高等教育段階におけるハイエストを目指す学びへの変換が必要です。これを高大接続（Articulation）、高大トランジションという概念で語るのですが、その切り替えがうまくできない学生が多くなります。そこで、高等教育段階での学びの姿勢と方法にしっかりと移行することを目的とした教育をこの講義で行っています。さらに、大学で戦略的・効果的で主体的な学習活動ができるように変容を促すことが大きな方針です」

授業では大きく分けて「学習スキル」と「キャリアプランニング」の二つについて学びます。学習スキルはさらに「シンキング」「コミュニケーション」に大別されます。今回実際に講義の様子を取材した際には、ロジカルシンキングについての授業が行われていました。ロジックツリーやポジショニングマップ、KJ法など、論理的に思考を深めていく手法が次々と紹介されていきます。学生たちはただそれを一方的に聞くだけではありません。先生の説明が一通り終わると、知識を自分のものにするためワークに取り組みます。例えばKJ法の場合には、「SNSアプリの一つを選んで、それが流通した理由を考えよう」といった課題が出されていました。学生たちは真剣に考え、活発に議論し、獲得した知識を使って結論を導き出していきます。

その内容は学生によって多種多様でした。「ロジカルシンキングの知識は、論文執筆で論理が破綻しないように全体像を描くことに役立ちます。その他、物事を深く分析するためのアナリティカルシンキングや、情報に惑わされないためのクリティカルシンキングも授業では扱います」

学生たちがワークに取り組んでいる最中、先生は常に学生たちの机を回ってアイデアをのぞき見し、ディスカッションに耳を傾けています。また、学生から質問が出た際には気さくに回答します。先生のその姿勢には、次のような思いがありました。「巡回する際は、大上段に物申すような態度は絶対に取らないと決めているんです。面白いアイデアがあれば、素直に『なるほど』と感心した気持ちを伝え、他の学生にもそのアイデアを紹介します。すると、他者の考えを知ることで視野と思考が広がり、またそれを受け入れるオープンなマインドが育ちます。さらに私が自由な発言をすると、『そんな考え方をしてもいいんだ』といった気付きを与えられます。生涯学習者としての考え方や態度というものを、私の振る舞いで見せていきたいと思っています。教育の場だからと固く考えて縮こまり、狭い世界に入ってしまうのはよくありません。本学の場合はなおさらです。本学ではものづくりを通して人間社会を豊かにする人材を育成していますが、本当に豊かな社会を実現していくためには、オープンなマインドを持って、いろんな考えや意見を取り入れていくことが大切なのです」

### 他者、そして社会との 関わり方を考える

授業で扱う学習スキルにはもう一つ、「コミュニケーション」がありました。社会で求められる能力としてコミュニケーション力はよく挙げられますが、この授業ではどのようにコミュニケーションと向き合っていくのでしょうか。先生はこう話してくれました。「この授業でコミュニケーションについて教えることは二つあります。一つは自分、他者、社会との関わりマネジメントができるようになるための知識です。これは人格の形成に関わってきます。そしてもう一つは、TECH LEADERになるための知識です。リーダーにとって、コミュニケーション力は欠かせません。ここでいうコミュニケーション力は、自分が率いるチームをしっかりマネジメントできる力を指します。チームの



Fig.1——ロジカルシンキングの授業。具体例を挙げて分かりやすく説明する



Fig.2——ワーク中には学生の間を回り、気さくに話しかける

中には合わない人もいるかもしれませんが、そうした人も含めてみんなの能力をうまく使い、タスクを達成していくような人材が求められています。そうした人材になるためのしっかりとした方法論があるので、授業ではその知識を学生たちに授けています」

学習スキルを身に付けた学生は、いよいよキャリアプランニングに取り組みます。1年のうちからキャリアイメージを組み立てていくのは簡単ではないように思われますが、大学の4年間をどう過ごすかにも関わる重要なポイントです。先生はどのようにキャリアプランニングをサポートしているのでしょうか。「まずはポジショニング分析ですね。チェックシートなどのツールを活用して、現段階の自分を知っ

てもらってから始めています。その上で、おおよそでも将来の方向性を考えてもらうようにしています。外部スピーカーの方を招き、その方との対話を通して労働や職業への理解を深めるといったことも行ってきました。また、60代までの人生設計を試みようという課題も出します。学生たちは近い未来しか見ておらず、将来像を描けてほしいは就職や結婚までですが、考えること自体に意味があります。この先いざ人生の分岐点に立った時、この経験があるのとないのとでは大きく行動が変わってくるはず。こうした授業で少しでも世界を広げてあげられればと考えています」

### あらゆる場面で生かせる 知識を身に付ける絶好の機会

山本先生のお話を聞いて、「学習・キャリア戦略論」は大学生活の土台となる非常に重要な授業であることが分かりました。最後に、先生は次のように話してくれました。「シンキングの知識は、研究のストーリーを考える際に必ず役立ちますし、普段の生活を充実させていくことにも使えます。コミュニケーションのスキルも研究室や社会できっと生きてくるでしょう。ここで得られる学びは使えない場面はないくらい実用的ですので、ぜひ授業を受けてみてほしいと思います」